

## デマンドバス

### 町内全域への運行を

### H31年度で全地域へ拡充

**問** 地方での暮らしに車は必需品で、交通弱者、特に高齢者にデマンドバスの運行はありがたい。現状を伺う。

**答** 森田 総務課長

自らの交通手段を持たない交通弱者に対して公共交通は必要不可欠で、公共交通空白地域の解消に努めてきた。

現在デマンドバスは、北郷加持エリアで、月・水・金曜日を一日5往復、1回100円で運行している。利用者は電話登録し、電話予約が必要。

**問** 他の地域でも利用を望む人が大勢だが、今後デマンドバスを多方面に増やせないか。

**答** 森田 総務課長

平成28年度に馬荷から上田の口方面、29年度には奥湊川から鞭方面と伴太郎、蜷川方面、米原から有井川方面への拡充を考えている。鈴、熊野浦方面も今後検討をしていく。

**問** 新庁舎への運行はどうか。また、国道には比較的近いが、各団地や入野地域などにも、バスは入ってくるか。

**答** 大西町長

新庁舎への運行や団地等も含め、町内全部の地域の公共交通の空白区域を解消する予定。平成31年度で完成させたいと思っている。

## 伊方原発

### 再稼働をどう捉えるか

### 苦渋の選択で容認

**問** 福島原発事故の原因究明もまだなのに、大多数の原発反対の声を無視して、伊方原発が再稼働された。伊方原発が停止している5年間、電気は充分間に合い、余った電気は売電されるという。

伊方原発7キロ沖には日本最大の活断層が走っており、南海トラフ巨大地震では専門家からも多大な影響はまぬがれないと、危険性が指摘されている。町長の見解を伺う。

**答** 大西町長

安全対策は国の厳しい審査をクリアーしての再稼働と認識している。再稼働を容認する立場ではないが、四電の火力発電所の老朽化等を考えれば、経済的な問題も含めて、再稼働は苦渋の決断だ。再稼働をすれば核廃棄物の処理が

## 防災対策

### あかつき館の池危険では

### シンボルなので現状のまま

**問** あかつき館の裏庭に池があり、木のオブジェも置いて

問題となるが、当町への処分場誘致は反対で、全体的な整合性が取れない部分があると自覚している。

**答** 坂本教育長

当館は町の文化、芸術発信の拠点として整備され、池は館のシンボルでもあり、潰す事はしない。避難するには十分な広さがあると考ええる。

ある。すぐ横に避難タワーがあり、避難には池のそばを通らねばならない。災害時は一瞬が命を守る分かれ目となり、子どもや高齢者には特に危険だが、潰すことはできないか。



みやぢ ようこ 議員 宮地 葉子



デマンドバスに乗る利用者 入野駅周辺